「日々の理科」(第 2371 号)　2021,-1,-8

「晩秋の高尾山自然観察行（最終回)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

薬王院をあとにして、一路山頂を目指した。何もせずにひたすら歩けば、20 分ほどで着くのだが、「路傍の対象物」を観察しながら・・・なので、なかなか山頂に着かない。それがまた、楽しいのだが・・・。

ブナの実も見つけた。高尾山や奥多摩にはブナの木も多い。ドングリを実らせる樹木（コナラ、クヌギ、マテバシイなど）はすべて「ブナ科」に属する。「ブナ」*Fagus crenata* は、その科名を代表する種のはずなのだが、ブナの実は今一つ「ドングリ」らしくない。殻斗（かくと）はまるでオナモミの実、堅果（けんか）も断面が三角形で、あまりかわいいとは言えない。あえて言えば、スダジイの実に少し似ている。

山頂は意外にも混雑していた。少し雲をかぶってはいたが、富士山も遠望することができた。やはり富士山を望めると嬉しくなるのが、日本人である。

昼食は、出発前から参加者全員（といっても私と露木先生の２人）の意見が一致していた。参道脇にある、「権現茶屋」というお店だ。ここでは名物「八王子ラーメン」を楽しめる。刻みネギが入った、実にすばらしいラーメンだった。

ケーブルカーの鋼索（ケーブル）の観察の為に、帰りもケーブルカーに乗った。わずか５分で麓駅だ。

高尾山の登山口（清滝駅）の近くに「もみじ橋」という小さな橋がある。橋の下の細い流れは、①多摩川の支流---②浅川の支流---③南浅川の支流---④案内川のそのまた⑤支流で、多摩川から見ると「玄孫（やしゃご)」にあたる。しかし多摩川は一級河川なので、その上流はどんなに細くてもやはり一級河川である。地形図に川の名称が載っていないので、地元の人に川の名を尋ねると「上流に琵琶滝という修行僧の滝があるので、私は琵琶滝川と呼んでいる、もみじ川という人もいる」　ということだった。どうやらこの小さな流れに正式な名称はないようだ。

ここは「もみじ橋」の名の通り、まさしくもみじに囲まれたすばらしい眺めだった。実におおらかで、学びの多い「高尾山自然観察行」だった。